

## 麦作情報 第2号

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

今年の播種は11月中旬に始まりました。11月中旬から12月上旬の気象は、平年に比べ、気温は0.9℃低く、降水量は56%、日照時間は96%でした。11月に播種された麦は、気温が低かったことから、出芽に日数がかかり、その後の出葉も平年に比べて遅れています。

### 1. 排水対策

下の写真は11月下旬播きの管内ほ場です(12月1日現在)。まだ出芽はしていませんが、すでに、ほ場内排水溝や周囲溝、排水口を整備しています。

排水対策は、地表排水と地下排水の組み合わせで行いますが、地表からの排水が約6割を占めますので、溝と溝をつないで落水口から排水させることが重要です。今後、旬を追うごとに降水量は増えていきますので、まだ整備をしていないほ場は、早めに行ってください。



畝間の溝と溝の交点をつなげている



周囲溝と排水口をつなげている

### 2. 晩播対策

水稻跡の播種はほとんど終了していますが、大豆跡についてはまだ残っています。晩播麦の収量確保のためには、晩播限界日(大麦:12/20、小麦:12/15)までの播種が必要です。遅れているほ場については、右表を参考に播種量を増やして下さい。

○播種量 基準よりも3～5割増やします（晩播限界日以降）

品種名	播種量 (kg/10a)	大豆後作の播種量 (kg/10a)
しゅんれい	10～11	8～9
チクゴイズミ ちくしW2	10	8

○小麦のシロトビムシ対策

小麦で過去にシロトビムシによる出芽不良が発生したほ場では、トリフミン水和剤（種子重量の0.5%種子粉衣）に加えて、シロトビムシ対策（アドマイヤー水和剤を種子重量の0.15%種子粉衣）を行ってください。

○雑草防除（10aあたり）

除草剤名	薬量	散布液量	使用時期
クリアターン乳剤	500～700mℓ	70～100ℓ	播種直後（雑草発生前）
ボクサー	400～500mℓ	70～100ℓ	播種後～麦2葉期まで
リベレーターフロアブル	60～80mℓ	100ℓ	播種後～麦3葉期まで

3. 11月に播種したほ場での管理作業

麦の生育状況を把握して、次の作業を行ってください。

○土入れ

土入れは、雑草防除、倒伏防止、過繁茂抑制及び湿害防止の効果があります。乾燥が続いて土壌が乾き、茎葉の水分含量の少ない日の午後に行います。また、麦踏み前に行い、麦踏み直後には実施しないようにしましょう。本葉3～4枚のころ（1月中旬）～3月上旬に2～3回行ってください。

○麦踏み

麦踏みは耐寒性の増大と分けつ促進、倒伏防止のために行う作業です。本葉4枚目が出る頃から始め、ほ場が乾燥している日を選んで実施してください。

※追加で麦種子を購入する場合は、在庫の関係がありますので、事前に最寄のグリーンセンターにお問い合わせの上、購入をお願いします。

グリーンセンター	本店	36-4785
グリーンセンター	福岡	43-0939
グリーンセンター	津屋崎	52-2900